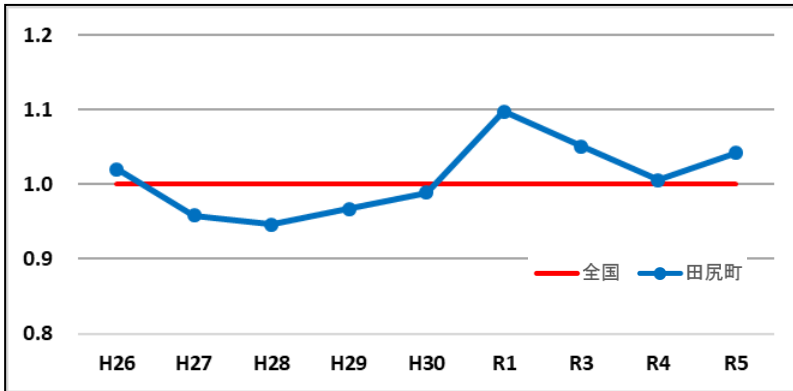


□ **結果概要** 全国平均を上回った

文章の種類や特徴・日常の敬語などを理解することができており、特に漢字を文の中で正しく使うことにおいて非常に高い習熟が見られた。一方、図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することや、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることについて課題が見られた。今後も、引き続き「書く」ことに力を入れた指導の充実が求められる。

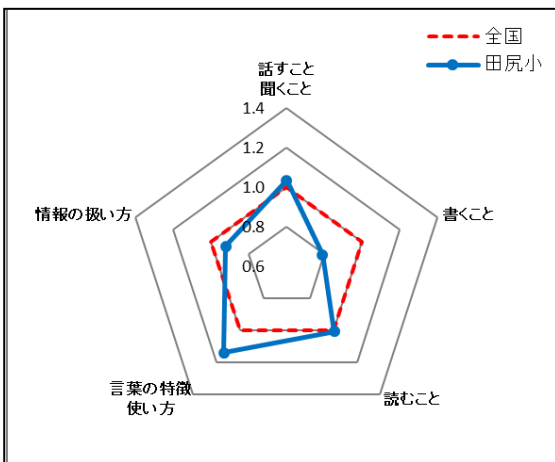
□ **正答率の状況** (全国平均正答率を 1.0 とした場合の田尻町の平均正答率)

◇ 正答率対全国比 経年比較

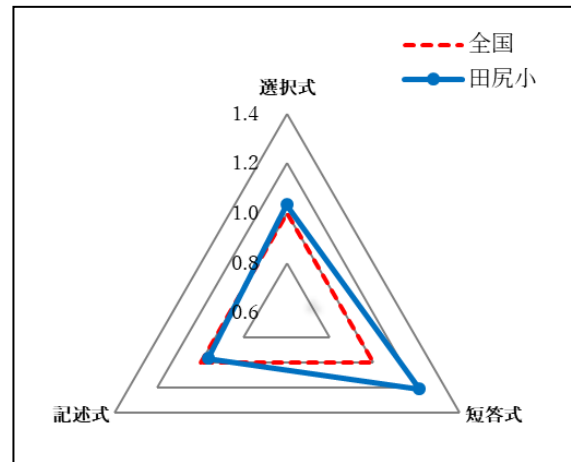


「言葉の特徴や使い方」は全国平均を大きく上回っている。また、「話すこと・聞くこと」「読むこと」についても全国平均を上回っている。しかしこれまで高水準を保っていた「書くこと」や「情報の扱い方」に課題がみられる。

◇ 正答率対全国比 領域別比較



◇ 正答率対全国比 問題形式別比較



□ **具体的な児童の状況等** (○：成果 ●：課題)

○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題について

いずれも全国の平均を大きく上回っており、高いもので正答率が 93%を超え、全国平均を 20 ポイント近く上回った。多くの児童が、漢字を文や文章の中で使おうとする習慣が身に付いている。同じ漢字を繰り返し練習することにとどまらず、学習において感想や振り返りを書く場面や、日常生活において日記を書く場面などで漢字を使うことを意識した取り組みの成果である。引き続き指導の充実に取り組んでいくことが重要である。

●図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題について

正答率が 21.1%であり、かつ全国平均を約 5 ポイント下回った。引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があると考えられる。学習指導にあたっては、資料から問題点を読み取ること、その解決方法について提示資料をもとに記述していること、文字指定が守られているかどうか、など与えられた条件のもと、自分の考えをまとめさせることが重要である。

●原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題について

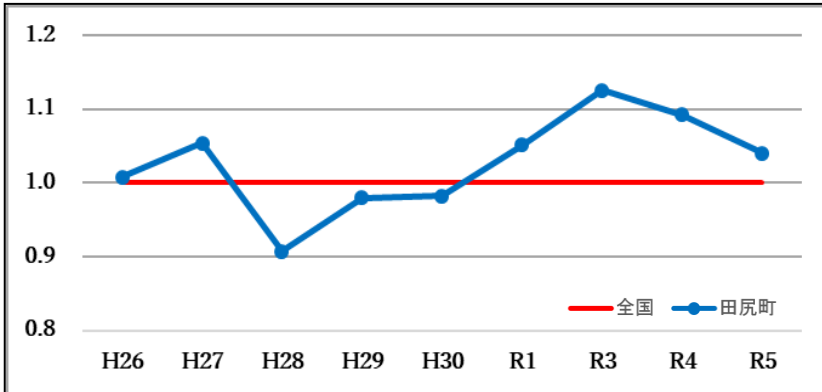
正答率は 56.3%であり、全国平均を約 7 ポイント下回った。原因と結果など情報と情報との関係について理解することに課題があると考えられる。学習指導にあたっては、ある事象がどのような原因によって起きたのかを把握したり明らかにしたりする活動を大事にしながら指導していくことが重要である。

□ 結果概要 **全国平均を上回った**

加法と乗法の混同した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすること、また( )を用いた式や、混合した式を場面と関連付けて読み取ることに大きな成果が得られた。一方、図形を構成する要素やそれらの位置関係を基に、構成の仕方について考察することに課題が見られ、指導の充実が求められる。

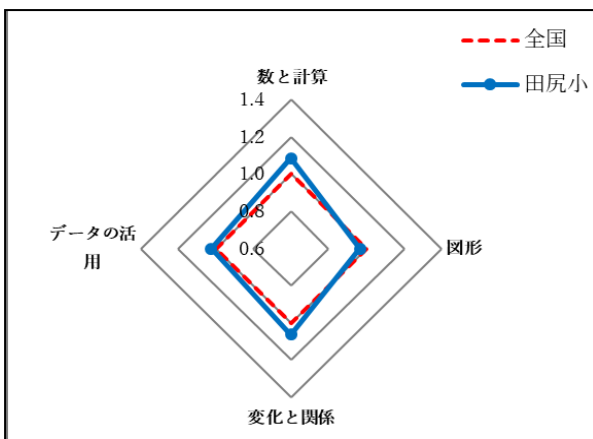
□ 正答率の状況 (全国平均正答率を1.0とした場合の田尻町の平均正答率)

◇ 正答率対全国比 経年比較

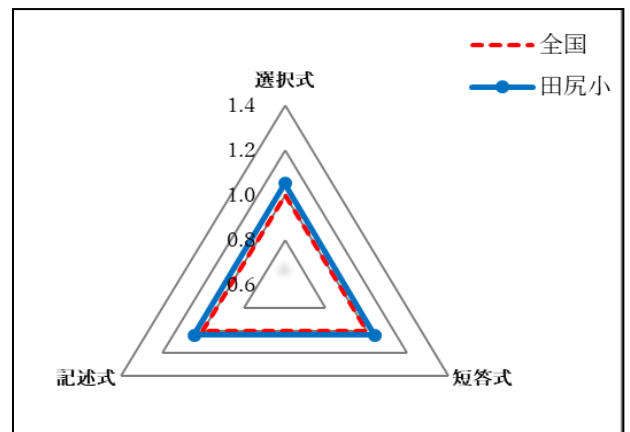


多くの領域で全国平均を上回り、問題形式別でも同様の結果が見られた。特に「数と計算」「変化と関係」については全国平均を上回った。しかし、「図形」については課題が見られる結果となった。

◇ 正答率対全国比 領域別比較



◇ 正答率対全国比 問題形式別比較



□ 具体的な児童の状況等 (○：成果 ●：課題)

○伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題について

正答率は66.2%で、全国平均を11ポイント近く上回った。二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察することができている。数年間引き続き行っている、「問題解決型の学習」を通じて、自分の考えを伝え合う活動の結果である。今後もこれまでの指導同様、正答を導き出すまでの自らの思考を、式や言葉、グラフ、表などを用いて説明する活動を充実させていくことが重要である。

○加法と乗法の混同した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる問題について

正答率は85.9%であり、全国平均を13ポイント強上回った。多くの児童が、四則の混同した式や( )を用いた式について理解し、正しく計算することができている。四則の計算については、数学的活動を支える大切な要素だと認識している。低学年から基礎基本を大切にするとともに、計算についての順序のきまりや計算に関して成り立つ性質について理解し、計算を習熟したり、計算を工夫したりすることができるようにすることが大切である。

●高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題について

正答率は12.7%であり、全国平均を8ポイント下回った。公式の意味を正しく理解していないことが考えられる。図形を構成する要素などに着目して、基本図形の面積の求め方を見いだすこと。その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現で説明し、公式として導くことができるように指導することが重要である。